

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(集計対象:平成25年度 調査実施年度:平成26年度)

部局	No.	著書／論文／発表題目等	氏名	研究の概要
経済学部	1	「既存用水路を利用した小水力発電技術導入の慣行水利権との関係における問題点—長野県下水内群栄村堺小赤沢地区における消雪溝排水用水路への水車設置を中心として—」信州大学法学論集第23号317頁	栗田晶、岡本卓也	慣行水利権に基づき引水されている用水路を小水力発電のために用いるとした場合の問題点を検討したもの。水利権の目的外使用の可否、利害調整の必要な水利権者の範囲等を検討した。
	2	信州大学 知の森未来プロジェクト:『放置自転車解放プロジェクト:経済学と法律学的分析による政策アプローチ』	内田 真輔 他 経済学部教員	学内における放置自転車抑制システム構築のための経済学的・法律学的分析
	3	2013年夏季における諏訪湖の水平・垂直水質分布. 環境科学年報—信州大学—, 36, 54-73.	柳町晴美・花里孝幸・宮原裕一・山本雅道 (共著)	2013年夏季における諏訪湖の水質に関して、観測要素の水平分布と垂直分布を解析した。
	4	都道府県別高齢者肺炎死亡率の季節変化. 日本地理学会発表要旨集, No.84, 201.	北島晴美, 太田節子 (共同発表)	都道府県別高齢者肺炎死亡率の季節変化に関して分析した。
	5	都道府県別高齢者夏季死亡率と気温との関係. 日本地理学会発表要旨集, No.85, 240.	北島晴美	都道府県別高齢者夏季死亡率と気温との関係について分析した。
法曹法務	1	講演「環境刑法と原発規制について」	三枝 有	中国広州外貿外語大学において、日本と中国との環境刑法の法整備の違いを踏まえた両国の原発規制の差異について講演を行った。詳細は信州大学法学論集第24巻にて掲載予定。
理学部	1	霧ヶ峰踊場湿原における火入れ延焼が湿原の水質に及ぼす影響 (信州大学環境科学年報 36号、50-53.(2014年3月))	中島 裕・戸田任重	2013年4月28日に発生した、霧ヶ峰踊場湿原周辺の火入れ延焼が、湿原および流入溪流の水質に及ぼした影響を調べた。
	2	A variation in the fraction of absorbed photosynthetically active radiation and a comparison with MODIS data in burned black spruce forests of interior Alaska	Hiroki Iwata, Masahito Ueyama, Chie Iwama, and Yoshinobu Harazono	火災跡の生態系において光合成に関係する光の吸収割合の観測を行い、その季節変化と植生の回復に伴う変化を明らかにした。
	3	Cross-validation of open-path and closed path eddy-covariance techniques for observing methane fluxes	Hiroki Iwata, Yoshiko Kosugi, Keisuke Ono, Masayoshi Mano, Ayaka Sakabe, Akira Miyata, and Kenshi Takahashi	重要な温暖化ガスであるメタンの交換量測定の精度検証のために測定システム比較を行い、適切なデータ処理を施すことで両者が一致することを明らかにした。

全学教育機構	1	論文、長野県塩尻市南東部高ボッチ山西部の地質環境と崩壊地形	安藤佳凜・千葉春菜・大塚 勉	野外調査を通して、地質を明らかにするとともに、現地でも過去に発生した大規模崩壊の要因を地質環境から考察した。
	2	「環境教育における文学の射程」(日本独文学会秋季研究発表会、9月28日、北海道大学)	松岡幸司	環境教育において文学教育に何ができるのか、ということ、を担当している教養講義「環境文学のすすめ」を例に示し、環境教育における文学の射程について、一つのアプローチ方法を提示した。
	3	「ボヘミアの森を歩く～アーダルベルト・シュティフターと環境文学への誘い～」(第66回フレッシュキャンパスセミナー、11月22日、信州大学全学教育機構)	松岡幸司	まずオーストリアの作家シュティフターの故郷であるボヘミアの森と町を写真で紹介した。この地域を舞台とした彼の作品を通して、「場所の文学」とも言われる「環境文学」というジャンルの紹介を行った。
	4	発表「だれが原生林をまもっているのかーサラワク、バラム河上流域の事例からー」、第23回 日本熱帯生態学会(九州大学)、6月15日[単独]	金沢謙太郎	バラム河上流域には、自然保護区以外で唯一まとまった原生的森林地帯が残っています。なぜこの地域にだけ原生林が残っているのか、それをだれがまもっているのかを議論します。
	5	ポスター発表 'The Nomadic Penan in Sarawak: Their Life Strategy over Environmental Change', 10th Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS10, リヴァプール大学、イギリス)、6月25日-28日[単独]	金沢謙太郎	商業伐採などの森林環境の変化により、遊動狩猟採集民はどのような影響を受け、どのようにして遊動生活を続けているのでしょうか。彼らの生活戦略に焦点を当てます。
	6	発表「狩猟採集社会に関する研究動向とウルバラムの地域事情」、ウルバラム研究会(第1回)、信州大学、7月16日[単独]	金沢謙太郎	熱帯雨林地帯の狩猟採集民社会に関する研究動向とマレーシア、サラワク州のウルバラムの地域事情について報告しています。
	7	フィールドワーク、マレーシア・サラワク州、9月9日-9月21日(9日-17日まで信州大学、分藤大翼准教授と同行)	金沢謙太郎	科学研究費補助金・基盤研究(B)「熱帯原生林における狩猟採集民と農耕民の共生に関する人類学的研究」(研究代表者、金沢謙太郎)によるフィールドワークを行っています。
	8	発表 'The Value Chain of Jinkoh 沈香 and Social Link Theory', 4th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (ISESA4, 河海大学、中国)、11月2日[単独]	金沢謙太郎	社会的リンク論の枠組みを参照しながら、2つのリンクが不可分の形であり続けられるような人と自然の関係のあり方を熱帯雨林産物の事例から探究しています。
	9	フィールドワーク、インドネシア・ボゴール、1月5日-1月13日	金沢謙太郎	熱帯雨林調査や社会調査の方法論に関して、国際緑化推進センター主催による講座を受け、ボゴール農科大学の演習林において実践しました。
	10	フィールドワーク、インド、2月21日-3月4日	金沢謙太郎	科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究「香道の『六国五味』にみる沈香のバリューチェーンの確立と課題」(研究代表者、金沢謙太郎)によるフィールドワークを行っています。
	11	「環境社会学の視点からー狩猟採集民の生活戦略：縄文人とブナン人の比較からー」(3-4頁)『2013年度人文・社会科学分野G.E.プロジェクト報告書』(3月)[単著]	金沢謙太郎	縄文人の食料調達の方法や居住地の移動に関する考古学分野の研究成果と東南アジアに現存する狩猟採集民であるブナン人に関する環境社会学分野の研究成果を比較検討しながら、狩猟採集という生業とその文化について考察します。
	12	フィールドワーク、マレーシア・サラワク州、3月19日-3月31日	金沢謙太郎	ウルバラムの狩猟採集民集落において非木材林産物利用に関する調査を行っています。

全学教育機構	13	教養科目としてのLCA授業の導入とその教育効果	小林充	製品やサービスのCO2排出量や地球温暖化影響量を評価するライフサイクルアセスメント(LCA)を広く普及するため、信州大学の教養科目としての授業内容やその効果について研究した。
	14	製品のライフサイクルアセスメント	小林充	各社の製品のライフサイクルアセスメントを実施し、環境負荷量や地球温暖化等の環境影響量および社会コストを算出した。
	15	製品のカーボンフットプリント・エコリーフ等の環境ラベル	小林充	各社の製品のライフサイクルアセスメント評価を実施し、カーボンフットプリントやエコリーフおよびエコマーク等の環境ラベルによる情報公開について研究した。
	16	平成24年度信州大学新生の体力傾向の分析：全国平均値および前年度との比較から	速水達也、杉本光公、折口築	本論文では、平成23年度の信州大学新生に対して実施した体力測定の結果について、全国平均値および昨年度の新生の測定結果との比較を行った。当該年度の本学新生は、全国平均値に比べて一般的に高値を示しており、前年度の新生の測定結果とほぼ同等の結果を示していたことが明らかとなった。
医学部	1	子どもの環境と健康に関する全国調査(環境省 エコチル調査)	野見山哲生他	環境中にある化学物質が子どもの健康に影響を与えていないかを検証する疫学調査を長野県上伊那地域で実施している
	2	微小粒子状物質の健康影響解明の為の疫学調査	野見山哲生他	微小粒子状物質の健康影響解明の為の疫学調査を文部科学研究費基盤Cで実施している
	3	微小粒子状物質等大気汚染物質による肺機能への発達への影響調査	塚原照臣	平成23～26年度にわたり、信州大学附属松本小学校、長野小学校を対象にPM2.5と健康影響に関するコホート調査に実施班の委員として取り組んでいる。(環境省)
	4	長野県内における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の認知と意識調査	津田洋子、塚原照臣、日高義彦、野見山哲生	信州公衆衛生学会第8回総会において、エコチル調査に関する認知と意識調査について報告した。
	5	別紙あり		
	6	別紙あり		
部内局部	1	環境図書展 2013	中央図書館	「海外の環境への取り組みについて知ろう」をテーマに、関連図書の展示とともに、信州大学環境マインド推進センターで毎年実施されている『環境教育海外研修』の報告パネルを実施した。

別紙 (医学部)

7. 昨年度において環境に関する研究を行いましたか。行った場合、下記の事項を記入してください。

環境中に放出された
放射性同位元素について

No.	著書/論文/発表題目等	氏名	研究の概要(60字程度)
1	Decontamination of radioactivity from contaminated vegetables derived from the Fukushima Daiichi nuclear accident	Kazuhiko Shiba, Masahiro Hirota et al.	福島第一原子力発電所事故に伴って汚染した周辺地域で栽培された野菜について、汚染状況の評価と、除染手法の検討を行った。
2	Investigation of contamination in spinach collected immediately following the Fukushima Daiichi nuclear disaster.	Masahiro Hirota et al.	福島第一原子力発電所事故に伴う環境汚染の評価の一環として、周辺地域で事故直後に収穫されたホウレン草の汚染状況を細胞レベルまで評価を行った。